

2 四季のにぎわいを考える

大津市役所にて、第2回の大津市新庁舎整備基本設計市民ワークショップを開催しました。

第1回で出した、大津の四季の『残るとよいこと / 変わるとよいこと』から『庁舎で活かせること / 解決できること』につなげます。せっかく新庁舎を訪れるなら、どのような場所や機能があると嬉しいかを考えました。利用目的を「日常利用・年数回利用・一生に数回利用」に分けながら、新庁舎にあるとよい機能や使い方を整理していきました。

ワーク内容

- ①第1回ワークショップのふりかえり
- ②新庁舎計画概要の説明
- ③庁舎に来る理由や使い方を付箋に書き出す
- ④新庁舎活用提案シートにまとめる
- ⑤発表

日常利用

年数回
利用一生に
数回利用

第1回のふりかえり



新庁舎計画概要の説明



付箋に書き出して話し合う



新庁舎活用提案シートにまとめる



グループごとに発表

日常利用

公園ひろば…散歩などで毎日通え、庁舎内も併せて活用することで、気軽に来れる庁舎になる。

市民デッキ…図書・読書スペース、カフェ、公園と1階市民ひろばを活用して、子どもたちを遊ばせやすく、親も過ごしやすい空間。

展望デッキ…ワークスペースやカフェなど、景色を感じながら活用できる。

年数回利用

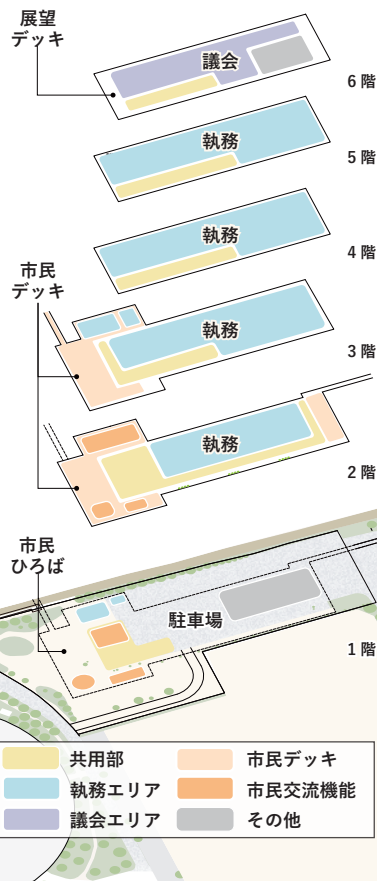
公園ひろば…季節を感じる植栽や、遊び・休憩に使える広がりを用意した空間。平常時は日常のにぎわいを生み、災害時には多目的グラウンド等と連携して地域の防災活動を支える。

市民デッキ…観光客やスポーツイベントの来場者も立ち寄れる、コンサートやワークショップ、マルシェなど、屋内外でイベントが盛んに行える。

展望デッキ…花火大会の際は市民限定で上ることができるなど、第1回ワークショップでも多く出た花火を楽しむための機能。

一生に数回利用

展望デッキ…婚姻届や出生届の提出など、大事な日に新庁舎で思い出を残したい、自然の景観を背景に写真を残したいという意見が多数出た。



ワークショップ結果

日常利用 / 113 個

年数回利用 / 53 個

一生に数回利用 / 25 個

合計 191 個

新庁舎活用提案シート
まとめ▶

グループ分析

各グループの様子と、どのような話し合いがなされたのかをまとめています。

* 当日の編成の都合上 A グループはありません。

B グループのキーワード
「みんなの居場所」

「みんなの居場所」というキーワードが表すように、親子、若者、観光客など多様な人が快適に過ごすための意見が出された。静かな自習スペースと、子どもが遊んだり大人が体操やダンスができる賑やかなスペースを、それぞれの性格に応じて配置する案が出た。市民のデイリーユースでにぎわいのある庁舎を望む声が多く聞かれた。

C グループのキーワード
「大津ポケット庁舎」

それぞれの「庁舎に行く理由」を話しながら、ふらっと立ち寄れる庁舎のあり方が議論された。広場やデッキ、窓際など屋外と屋内をおおらかにつなぐ場所への意見が多く見られた。学び・仕事・子どもの遊び・市民活動などがコンパクトに詰まり、必要に応じて使い方が広がる、市民の“ポケット”のような広場が望まれていた。

D グループのキーワード
「大津バレイ」

学生や若者が庁舎へ行きたくなる場所や機能について深掘りが行われ、読書スペースや屋外でくつろげるスペースのアイデアにつながった。雨除け付きのブリッジやイベントに使える広場、ダンス練習ができる多目的スペースなど、参加者同士が意見を交わしながら、日常的に使いたくなる庁舎のイメージが具体的に出された。

E グループのキーワード
「ちょっと大きい公民館」

庁舎に行ったことがない参加者もいる中で、手続き以外にも市民や観光客が気軽に使える場所にするには何があるとよいかが話し合われた。食堂の開放、図書スペース、勉強スペース、マルシェ、絵本コーナー、観光案内など、地域の公民館のように市民がふらっと立ち寄れる機能のアイデアが出された。

F グループのキーワード
「イベント型庁舎」

ライフイベントや季節行事、公園でのスポーツイベントとの連動など、イベントの具体案に加え、庁舎でイベントを行いやすい環境をつくることについて話し合われた。展望デッキや市民デッキを活かし、記念撮影、花火観覧、スポーツ観戦、発表、健康体操など、大津全体の魅力を活かしてまちのにぎわいにつなげるアイデアが生まれた。

G グループのキーワード
「日常的に災害を意識できる市役所」

新庁舎に求める機能について、現在の周辺施設の使われ方を確認しながら意見が出された。図書スペースやワークスペース、遊べるスペースなど、普段使いの場所に、カマドベンチ、防災キャンプ、シャワースペース、災害時に集まれる場所といった機能を重ね、日常と災害時をつなぐ庁舎のあり方が話し合われた。

H グループのキーワード
「ただで使える庁舎」

普段庁舎に行くことが少ない参加者が多い中、子どもが過ごせる場所や、散歩や買い物のついでに立ち寄れる場所など、日常利用のアイデアが出された。市民が気兼ねなく使える庁舎にするには、無料で使える場所や機能があることに加え、動線や案内が分かりやすく、入ってよい場所が明確であることが大切という意見が交わされた。

全体のまとめ

大津の魅力豊かな自然や広場と一体的につながる新庁舎のアイデアが多く出ました。新庁舎の屋内と屋外が大らかにつながる空間として、子どもが過ごしやすいスペースや、イベントができるスペース、また市民がふらっと立ち寄れる休憩スペースや学習スペースなど具体的な意見がたくさん出ました。普段は庁舎に行くことが少ないという声が多い中で、手続きや申請以外でも多様な人が活用できる庁舎を求める声があがりました。第1回のワークショップで出てきた大津らしさを含むたくさんのアイデアをきっかけに、市民が気軽に活用でき、年中にぎわいがある新庁舎がイメージされてきたように思います。

次回予告！

10/17(土)

10:00~12:00

3

四季の庁舎の過ごし方を考える

第2回では、「庁舎に何があると嬉しいか」「どんな使い方ができるか」を話し合いました。今回はそのアイデアを元に市民交流スペースをどんな場所にしていきたいかを考えます。また、機能や設備だけではなく、にぎわいのプログラム（その場所でどう過ごすか/そのために必要な環境条件等）をイメージし、話し合います。

